

「難民」＝「移民」問題のその後

盛田 常夫

止まらない流入－政治家と国民の亀裂が深まる

クロアチアとハンガリーの国境を経由する「難民」＝「移民」の流入は止まるところを知らない。連日、両国国境で数千人単位の「難民」（ハンガリーは「不法入国者」と呼んでいる）の受け渡しが行われ、ハンガリーは入国管理も難民登録もすることなく、オーストリアへ送り出している。きわめて異常な事態が続いている。

最終目的地であるドイツバイエルン州は連日大量に流入する入国者の対応を追われ、州の行政機能が事実上麻痺している。10月9日に州政府閣僚会議を開き、ホルスト・ゼーホーファー州知事は、連邦政府に対して、「ドイツはもうすでに難民を受け入れる余地がない」ことを世界に宣言し、「難民」流入を抑制すべきだと要求し、もしそれを行わない場合には、憲法裁判所に対して連邦政府の措置にたいする異議申し立てを行うことを決め、さらにバイエルン州独自で「難民」流入にたいする措置を講じることを記者会見で明らかにした。

これにたいして、連邦政府官房長官ペーター・アルトマイエルは、連邦政府は基本法にもとづいて難民対応を行っており、バイエルン州の異議申し立てには何も困ることはないとしてARDのテレビ番組を通して発言したことが伝えられている。

バイエルン州が要求しているのは、以下の4点である。

1. 世界に向かってドイツの難民収容能力がもうすでに枯渇したことを明確に伝えること。
2. EUの国境管理を強化するために、連邦政府はEUと早急に協議すべきこと。
3. ドイツ国境での管理を継続することを、シェンゲン条約にもとづいて宣言し、EU委員会に説明すること。
4. 「難民」の取り扱いを決めたダブリン条約の諸規定を遵守するよう、すべての関係国に働きかけること。

オーストリアから「難民」を受け入れる南ドイツバイエルン州は、学校の講堂を難民仮宿舎にするなどの措置をとっており、日常の行政業務に大きな支障を抱えている。明らかに連邦政府の政治家と地元政治家あるいは住民の間には、大きな亀裂が生まれており、「難民収容所」への放火事件が相次いでいる。

国民の日常生活に大きな支障が出るようになり、政府の政策と国民感情が大きな亀裂を生み出している。

国境管理の強化と難民取り決めの合意

ようやくEU委員会も、事実上、機能が停止しているシェンゲン条約にもとづく国境管理の強化が緊急に必要なことを認めつつある。ギリシアにEU加盟国からの連合管理部隊を配置することや、「難民」に密航を助ける業者の厳しい取り締まりの必要性が叫ばれているが、まだ何も実行されていない。

他方、シェンゲン条約の矢面に立っているハンガリーは、7日にクロアチア大統領コリンダ・グラバル=キタロヴィッチをハンガリーに迎え、両国間の懸案問題について率直な意見を交わした。さらに、翌8日には、バラトン湖畔にV4（ヴィシエグラード四カ国：ポーランド、チェコ、スロヴァキア、ハンガリー）の国家元首を迎え、クロアチア大統領も特別に参加し、難民問題ほかを議論した。

クロアチア大統領のハンガリー訪問中に、クロアチア首相ゾラン・ミラノヴィッチは、再びハンガリーを罵り、「ハンガリーは欧州の盲腸だ」と非難し、難民問題を協議したオルバン首相とグラバル=キタロヴィッチ大統領をも非難した。記者会見で、グラバル=キタロヴィッチ大統領は、自国首相の発言は「総選挙を意識した政治的なキャンペーンであり、クロアチア国民がそのように考えているのではない」と釈明したが、いかに選挙中とはいえ、国家元首が隣国を訪問している最中に、そのような侮蔑的な発言をする振る舞いは褒められたものではない。現首相ミラノヴィッチは、連立政府を構成している社会民主党の代表であるが、中道右派の野党HDZがハンガリーに理解を示していることもあって、口汚くハンガリーを攻撃しているようだ。

V4国家元首は共同でEUおよびシェンゲンの境界管理・警護を行うことを決定し、ハンガリーとセルビア・クロアチア国境を4国共同で管理する具体的な方策が検討されることになった。この具体的協議は12日から始まる週のEU委員会に参加する政府首脳で議論されることになった。

ギリシア国境管理の再建が進まない中、ハンガリーのシェンゲン国境管理をV4が共同でおこなうことになれば、ギリシア国境管理を含めたシェンゲン境界管理の再建や難民対応の取り決めが、再び議論の中心になることが予想される。

(2015年10月10日)